

No.100



愛媛県 青少年赤十字だより

気づき 考え 実行できる子どもたちに！



愛媛県青少年赤十字指導者協議会

会長 冨永 達也
(西予市立中川小学校長)

中川小学校では、登校後始業までの約十分間に朝ボランティアという活動を行っています。春から秋にかけては運動場の草引き、そして秋から冬にかけては、落ち葉掃除を中心に行います。夏は暑い中、そして冬は寒い中で作業となりますが、自分たちの行動が学校の環境美化へとつながっていることを実感し、満足感や成就感を味わってほしいと思っています。

本来ボランティアは、自発的な意思によって行われるものですので、時間を設定して行うことは、厳密に言うとは少し意味が違ってしまいますが、「ボランティアに向かう心を育てるために体験する活動」として考えています。通学班での奉仕活動や地域の老人クラブとの共同作業なども行っていますが、どれも趣旨は同じです。無償で行う自分の行動が、世のため人のために役立っているという経験を積み重ねることは、自己有用感を高めるのであるうし、将来的にボランティア活動

に取り組む態度と意欲を育む一つの要素になるのだらうと思っています。

このボランティアについての思いをさらに深めさせられる体験がありました。それは、西日本豪雨災害です。この災害は愛媛県にも甚大な被害をもたらしました。私の住む西予市も、その一つです。

ありがたいことに、公私を問わず物心両面からのたくさんの方の御支援をいただきました。災害直後から、たくさんの方のボランティアの人たちが駆けつけ、被災した地域の復旧作業等に尽力していただきました。「してほしい」とは、何でも言うてください。遠慮せんようにしてよ」と言いながら泥を掻き出し、細かいところまで丁寧に作業しているボランティアの皆さんの姿は、温かさや優しさに満ち溢れています。市内外を問わず、縁もゆかりもない遠方からでも駆けつけて、目の前の困っている人たちのために、自分ができることをするという気持ち、これ

はきつとソルフェリーノでの惨劇を目の当たりにしたとき、デュナンが感じた思いに通ずる部分なのだろうと感じました。ボランティアに取り組む人たちのエネルギーを目の当たりにして、ボランティアに対する高い意識を子どもたちにしっかりと育てていきたいと改めて思いました。

また、防災に対する知識や態度を身につけさせていくことの必要性も強く実感しました。市内には、地域の自主防災組織と連携して、地域と合同で防災訓練を実施している学校もあります。そこでは、児童たちが避難所運営のシミュレーションをするなど、防災の知識や実践力を高める活動に取り組んでいます。今後も計画的に、防災教育の取り組みを推進していかなければなりません。各校に配布されている青少年赤十字防災教育プログラムもぜひ活用いただきたいと思います。

ボランティア活動においても防災教育においても、目の前の状況を理解し、自分にできることを考えて、実践する力が求められます。それはつまり「気づき 考え 実行する」という青少年赤十字の態度目標へとつながっていくのだと思います。学校の実情に合わせて青少年赤十字活動を取り入れ、その長所をいかしていくことで、児童生徒のより一層の成長を図ることができると信じております。今後とも、青少年赤十字活動への御理解と御協力をお願い申し上げます。

◆指導者協議会総会・研修会

五月二日(水)日本赤十字社愛媛県支部・研修会室を会場に、平成三〇年度愛媛県青少年赤十字指導者協議会総会・研修会を開催しました。

総会では、事業報告と会計・監査報告に続き、事業計画と予算審議を行ったのち、研究推進校による実践報告（松山市立みどり小学校）と推進報告（四国中央市立中之庄小学校）がありました。

研修会では、防災教材「まもるいのち ひろめるぼうさい」概要説明のあと、グループワーク「新聞タワー（教材では「竹ひこタワー」）を体験していただきました。最初はルール説明だけでチャレンジ、作戦会議を挟んで二回目にチャレンジしていただき、日頃は児童・生徒に指導をされる立場の先生方も、童心にかえって取り組んでいただきました。

教材の中にはコミュニケーション力を育むプログラムが掲載されていますので、ぜひ、各学校でも活用してみてください。



◆高校生連絡協議会「春の総会」

五月二六日(土)日本赤十字社愛媛県支部・研修室で、高校生連絡協議会「春の総会」が開催され、五校から六九名の参加がありました。

午前中は、大学生による学生奉仕団連絡協議会の活動紹介やアイスブレイク、AEDの使用法に取り組みました。

午後は、最初に三月にスタディー・センターへ参加したメンバー二名から報告があり、その後、二〇三〇年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」を利用して「世界に目をむけてみよう」というテーマでグループワークを実施しました。最後は、愛媛県赤十字血液センター職員による「献血について」の講話を聴きました。



昨年度から、JRCのOB・OG個人ボランティアに協力してもらっており、現役時代とは違った立場で総会に関わってもらっています。
なお、本協議会は、他校との交流により自校の活動の活性化を図ることを目的として年二回開催しています。

◆リーダーシップ・トレーニングセンター

指導者養成講習会に参加して

伊方町立三崎小学校 教諭 松本 由里

五月二五日から二七日の二泊三日、リーダーシップ・トレーニングセンター指導者養成講習会に参加しました。全国各県からたくさんの方々が参加していました。特に印象に残った活動を紹介します。

防災教育プログラムでは、前半「竹ひこタワー」を体験しました。ホームルームの先生方と話し合ったり協力し合ったりと楽しく活動しました。この活動を通して、ぐっと親しくなりました。後半は、講師が経験した熊本地震の講話を通して、コミュニケーション力の必要性や防災の正しい知識を身に付けるためには、「まもるいのち ひろめるぼうさい」が必要な教材だということ学びました。

二日目は「リーダーシップとは」というテーマを「ワールドカフェ形式」で校種の違う先生方と気軽に話し合いました。話し合っていく中で、誰もがリーダーになれること、そのために一人一人をしっかりと見て、認めることの大切さに気が付きました。午後からは、実際にフィールドワークを体験し、運営方法や注意点を学びました。ここでも、協力の大切さや注意深く行動することの大切さを学びました。

最終日は、ホームルームで、期間中に学んだことを各学校でどう生かすのかについて話し合いました。

この研修を通して、全国の校種の違う先生方と出逢い、いろいろ情報交換をするよい機会になりました。学んだことを今後活動に生かしたいと思います。



◆指導者講習会

七月二三日(月)～二四日(火)松山市「えひめ青少年ふれあいセンター」を会場に、平成三〇年度青少年赤十字指導者講習会を開催する予定でしたが、西日本豪雨災害の影響で中止となりました。



※写真は29年度

本講習会では、「学校教育と赤十字」の講義や、身近なものを使った応急手当、防災教育プログラムの活用などを学び、フィールドワークでは学習した内容の復習を行います。また、ハイゼックスという中低圧ポリ袋を使った非常食体験もしていただけます。

毎年、「来るまでは気が重かったけれど、参加して良かった」という感想をいただきます。

二日間で学んでいただく内容は青少年赤十字のほんの一部ですが、何か一つでも学校教育の中で使っていただけのもがあるはずと期待しています。

◆高校生・中学生・小学生 合同トレーニング・センター

七月二八日(土)～三〇日(月)、松山市「えひめ青少年ふれあいセンター」で、青少年赤十字高校生・中学生・小学生合同トレーニング・センター(以下、トレセン)を開催する予定でしたが、平成三〇年七月西日本豪雨災害の影響と台風二二号の接近に伴い中止となりました。

本トレセンでは、初日は高校生のみの活動で、赤十字についての学習やAEDの使用法を学び、二日目から参加する小・中学生の受け入れ準備をします。小・中学生が合流したら縦割りの異校種グループに分かれ、ホームルーム活動をベースに、ワークショップや防災教育プログラムなどに取り組みます。最終日は、フィールドワークがメインの活動で、前日までに培ったホームルームの絆を発揮し課題にチャレンジします。

プログラムは盛りだくさんで、あつという間ですが、校種を超えた仲間と作った思い出をお土産に、それぞれの帰途に着きます。



※写真は29年度

◆高校生連絡協議会 ～秋の総会～

一〇月二〇日(土)日本赤十字社愛媛県支部・研修室で、高校生連絡協議会「秋の総会」が開催され、五校から四二名の参加がありました。



午前中は、平成三〇年七月豪雨災害を受けて、支部職員による「まもるいのち ひろめるぼうさい」の中から風水害についての講義を受けました。午後は、愛媛大学附属高等学校の構内図(拡大コピー)を利用して避難所を設置するグループワーク「避難所を作ってみよう」に取り組みました。まず、グループで設定やルールに則って避難所を設定し、全体の発表を聞いてから改めて気が付いた点や手直しの必要な部分を再考し、もう一度発表しました。

企画した役員から「それぞれ学校に戻ったら、自分の学校や想定される場所で考えてみましょう」と提案がありました。

「いつ、何が起きてもおかしくない状況」を改めて考える機会となり、有意義な総会になりました。

第六〇回青少年赤十字研究会を終えて



四国中央市立中之庄小学校

校長 原田 尋

去る一月二日、澄んだ青空と同じくらいさわやかな気持ちで、第六〇回という節目の研究会を終えることができました。

多くの方から、「子どもたちに元気をもらった」との声が届き、この研究の機会をいただいたことに感謝しています。そして、「子どもが真ん中」を合言葉に、「居場所づくり」と「絆づくり」の実践を積み重ねてきてよかったと思っております。

研究推進校としての二年間は、本校の取り組みを再構築するチャンスとして捉え、全教育活動をJRCの視点で見直してきました。人懐こく、エネルギーに満ちた中之庄の子どもたちが、「誰かの役に立ててよかった」「ありがとうと言われてうれしかった」といった経験を積み重ねながら、自己有用感を高め、少しずつ成長していく姿に、取り組んできたことの手ごたえと喜びを感じました。また、「手つなぎ防災」や



「かがやき集会」等の活動を通して、地域の方々や保護者の皆様とつながり、学びを広げることができました。そして何より、私たち教職員の「気づき、考え、実行」していく力を実感することができました。



研究会は通過点であり、まだまだ課題もありますが、一つでも多くの経験が、JRCの精神として子どもたちの中に根付くよう、教職員一同、これからも二人はみんなのために、みなは一人のためにの言葉を胸に、一歩一歩、進んでまいります。

結びに、支えてくださった皆様、

ご指導いただきました皆様、心より感謝申し上げます。

研究主題の概要

《研究主題》

一人一人の命を大切にし、生き生きと主体的に活動する児童の育成

《研究目標》

青少年赤十字の考えを基に、一人一人の命を大切にし、生き生きと主体的に活動する児童を育成する。

《研究内容》

【学習部会】

確かな学力をつける授業の創造

・年間指導計画の見直し

・学び合う基礎づくり

・通級指導教室との連携

【仲間づくり部会】

人権を尊重した仲間づくりの充実

・自己有用感を高める学級集団づくり

・特別活動の充実

・家庭・地域・関係機関との連携

《研究の成果》

・年間指導計画の見直しによる授業の指導改善

・授業のユニバーサルデザイン化の充実

・教職員間の連携強化

・学び合い学習「なかのしょうたいム」による児童の学習意欲の向上

・児童の「気づき、考え、実行する」力の向上

《研究の課題》

・児童の課題に対する気づきや継続する力の育成

・一人一人のよさを認め合う学級集団・異年齢集団づくりの推進

・主体的・対話的な深い学びの実現

につながる「なかのしょうたいム」の充実



研究会報告

四国中央市立中之庄小学校

一【集会・公開授業】

○児童集会

「かがやき集会」

一〇月に行った手つなぎ防災広場での体験をきっかけとして、自分たちが災害や防災について、学んだことや体験したことを全校のみんなや保護者、地域の方に発信した。災害や防災に対する意識が高まったと同時に、自分たちの生活を見直すよききっかけとなった。



○一年 道徳

「たった一つのいのち たった一つのいのち」

登場人物の気持ちを自分自身置き換えて、自分の命は家族や周りの人たち、みんなに支えられていることを考えた。

家族からの手紙を読むことでたった一つしかない命を大切にすることが大切にする気持ちを深め、安全に生活しようとする意欲につながった。

○四年 道徳

進んで活動する

「点字メニューにちようせん」

点字板や点筆、点字で書かれた絵本を導入部分で提示し、自分の体験を想起しながら資料について考えを交えた。誰かのために活動することで、自分だけでなく周りにも幸せな気持ちを届けられると分かり、進んで働こうとする意欲につながった。



○六年 外国語

What do you want to be?

『夢言』をよむ」

自分の将来の夢を、友達や参観者に英語表現を使って伝え合う活動を行った。夢を伝えるときに、めざす理由についても、習っている英語表現等を使って交流した。夢を語り合う中で、その夢を応援しようという気持ちが生まれ、自然と相手を励ます言葉が出るような児童同士の温かい活動へとつながった。

二【分科会】

○第一分科会

教育課程の実施に青少年赤十字をどう生かせばよいか

伊方町立三崎小学校の発表を受けて情報交換を行った。各校種間の連携により、児童に責任感を育てるとともに、地域ボランティアとの活動により、児童に奉仕の精神を学ばせている。赤十字の精神は、新学習指導要領に示されているこれからの時代に必要な能力にも通じる。

○第二分科会

健全育成に青少年赤十字をどう生かせばよいか

松山市立生石小学校の発表を受けて情報交換を行った。保護者や地域と連携した米作りの活動を通して、「感謝」や「奉仕」の心を育てる取り組みが行われている。目新しい取り組みをするのではなく、今ある行事を充実させる「平凡の充実」が青少年赤十字の健全育成につながっている。

○第三分科会

地域と連携した教育に青少年赤十字をどう生かせばよいか

今治市立日高小学校の発表を受けて情報交換を行った。伝統的な活動に加え、代表委員会の話し合いを基に、児童主体の実践が行われている。地域とともに活動することで、地域への帰属感や未来の地域を担う自覚を

育てている。特色ある新しい学校づくりにもつながっている。

指導助言 渡部 和寿 先生

(愛媛県教育委員会)

義務教育課指導主事)

中之庄小学校の取り組みは、青少年赤十字の意義をしっかりと組み入れられており、校長だよりから掲示物まで「プラス言葉」があふれている。年間カリキュラムが図式化されており、ビジョンが明確だ。活動において、子どもたちの頑張りに「気付いて、声を掛け、認め合う」ことの繰り返しが大事である。UD化のポイントを明確にし、伝え合う活動（なかのしょうたいム）を進めていってほしい。

講演 野村勝廣 先生

(前四国中央市教育委員会教育長)

田中あけみ 先生

(四国中央教育会会長)

教育者として経験豊富なお二人が、学校現場だけでなく地域社会や外国との関わりの中で感じたことを基にして、対話形式の講演を行った。前半は、ネパールでの学校設立の活動や識字学級での支援活動などを通して、国際的な視野から見えてくるもの、後半は、新学習指導要領も含めて、「学校教育と赤十字の精神のつながり」「赤十字の精神に学ぶ人としての生き方」について、お二人の経験や思いを伺った。

◆青少年赤十字・赤十字奉仕団愛媛県大会

一月一七日(土)松山市「えひめ青少年ふれあいセンター」を会場に、青少年赤十字・赤十字奉仕団愛媛県大会を開催しました。

総勢二二〇名の参加があり、分科会では、青少年赤十字は小・中・高合同の縦割り三分科会に分かれて「わたくしたちの活動・他校種の活動を知ろう」をテーマに、奉仕団も三分科会に分かれて「赤十字奉仕団として取り組むことのできる地域における防災活動を考えよう」をテーマに話し合い、他校・他団の活動や情報を共有しました。



全体会では、「アジア・大洋州災害対応衛生給水キット」整備のための一円玉募金の贈呈や、長年活動を続けている学校・指導者の表彰、四国中央市立中之庄小学校と宇和島市宇和島赤十字奉仕団の活動報告がありました。

年に一度、県内の加盟校と奉仕団が一堂に会するこの大会で、新しい仲間を増やしていただけることを目標に、今後も開催していきます。

◆国際交流事業に参加して

「違いと環境の大切さ」

新田高等学校 二年 石村力也

僕は、一月二日(木)から四日間、「JRC/JCY International Meeting, "Tokyo2018"」に参加させていただきました。

このプログラムでは、アジア二〇ヶ国の代表者四〇名と日本の代表者三七名が一〇のホームルームに分かれて、フィールドワークや各ホームルームに与えられたテーマについてお互いの国の情報を交換しディスカッションを行っていました。

今回参加して、僕が一番に残ったのは、「環境づくり」の大切さです。グループディスカッションを行った後、その内容を全体で発表するのですが、僕たちのホームルームは、多文化共生社会に



ついて話し合い、最後に劇という形で発表しました。一つのスペースに日本国旗を立て、日本人同士で場所を奪いあっているところに、外国人たちも奪い合いに参加して自分たちの国旗を立てようとしています。そこに、スペースを広げてそれぞれが共存できるように提案する人が現れます。この劇で、僕たちは、他者の考えを受け入れず、自分の主張ばかりしてトラブルになっていること、共存すること自分たちの文化を發揮できるようになることを表現しようとしていました。僕は、この劇を通して、人は皆、違いを持っていること、その違いを認め合い共存できる環境を整えることが多文化共生には必要であることを学びました。

国際交流事業に参加し、たくさんの方ができました。また、多くのことを学ぶことができました。次はユースボランティアとして参加したいです。この機会を与えてくださった日本赤十字社の方々に感謝いたします。



◆指導主事対象研究会に参加して

愛媛県教育委員会義務教育課

指導主事 渡部 和寿

平成三十一年一月九日から二日間、日本赤十字社本社で開催された指導主事対象研修会に参加させていただきました。二日間の研修を通して、青少年赤十字活動がどのような理念に基づいて活動が行われているかについて、理解を深めることができました。特に印象に残ったことが二つあります。

一つ目は、防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」です。学習指導要領でも、特別活動において、防災教育を行うことが新たに明記されています。防災教育では、「人を助けるためには、まず自分が生きなければならぬ」ことをしっかりと伝えることが必要です。あらゆる自然災害に対して、正しい知識を持ち、自ら考えて判断し、危険から身を守る行動をとることが必要になります。このプログラムは、児童生徒が主体的に取り組み、知識と行動力を身に付けるだけでなく、他者への思いやりや優しさ、命の大切さを学び取る力を育む内容になっており、各学校ですぐに取り組めるものだと感じました。

二つ目は、分科会での話し合い活動です。全国から集まった指導主事と意見を交わす機会は大変貴重で、大いに刺激を受けました。短時間ではありましたが、「研修会に参加して、今後、学校現場に戻った際に取り入れたいと思うものは?」、「自身で取り入れたいと思うものを学校で実践するために、今の立場でできることは?」等の議題で、KJ法を用いて意見交換し、考えを深めました。研修を通して、「青少年赤十字の活動を始めるこ

と」を「新しいことを始めること」と考えず、各学校が現在行っている教育活動と青少年赤十字の実践目標「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」で捉え直せばよいと改めて理解しました。青少年赤十字の力を借りることで、先生方の負担を減らし、効果的な教育活動を展開できる可能性が広がります。今後の研修会等の場面でも青少年赤十字のよさを紹介し、教育現場での活用を促していきたいと思えます。

◆スタディー・センターに参加して

県立東温高等学校一年 井上 佳音

私は、今回スタディー・センターに参加して学んだことが一つあります。

それは、リーダーシップの大切さです。各都道府県の代表が集まる行事で、知っている人もいなく、皆が緊張している中、決められたグループで最初に発言することは勇気のいることでした。そんな中、一人の女子が発言をしてくれ、私たちのグループをまとめてくれました。私は彼女の勇氣に尊敬を感じました。

二日目の「リーダーシップとコミュニケーション」というプログラムで、リーダーとリーダーシップの違いを学びました。リーダーとは、ある人に与えられた役割であり、リーダーシップとは、全員が持つべきものだという事です。リーダーはその集団の目標達成に貢献する行動をとる素晴らしい人のことで、私は、私たちのグループをまとめてくれている彼女の顔が思い浮かびました。彼女のようなリーダーになることを目標に、来年度の愛媛県のJRCをまとめたいです。

最後に、五日間で素晴らしい思い出ができました

た。このスタディー・センターに参加した意味をよく考え、ここで学んだことを愛媛県のJRCメンバーと共有し、これからの活動をより濃いものにしていきたいと思えました。

県立東温高等学校一年 中橋 理

今回、スタディー・センターに参加することになった時、僕は最初、五日間という長い期間行かなければいけないのが不安で、会場に着いた時も早く帰りたいという気持ちでした。しかし、活動を通していくうちにその気持ちは変わっていきました。

一日目はオリエンテーションやホームルームの時に、全国から集まったメンバーのすごさに圧倒されて何も出来ずに終わってしまいました。そのメンバーはとても心強くて優しくアットホームな環境だと思いました。二日目は海外派遣報告や防災学習などのプログラムがあり、その中でも周りのメンバーは、聞く時はきちんと聞き、話し合うときはしっかりと話し合っています。面白いなと思いました。三日目はフィールドワークで、ホームルームのメンバーと関所を回りました。色々な「お題」を一緒に達成していき、一人では出来ない事も協力すれば出来る事を学びました。四日目はワークショップで、これからの活動を考える時間でしたが、しっかりと実現可能な活動を考えました。

最終日は、五日間ずっと生活してきた仲間と別れるのが辛くて、ずっとこのメンバーといたいと思えました。このスタディー・センターは、僕を成長させてくれたキラキラした場所でした。

二〇一九年度事業計画



- 四月 県指導者協議会総会・研修会（日赤支部）
- 五月 第一回指導者協議会常任委員会（日赤支部）
高等学校指導者協議会（日赤支部）
高校生連絡協議会・春の総会（日赤支部）
トレーニング・センター指導者養成講習会（東京都）
- 六月 県賛助奉仕団総会（松山市内）
全国指導者協議会総会・研修会（東京都）
- 七月 全国賛助奉仕団協議会総会（東京都）
指導者講習会（松山市内）
- 八月 合同トレーニング・センター（松山市内）
第二回指導者協議会常任委員会（日赤支部）
- 十月 中・四国ブロック賛助奉仕団協議会（徳島市）
中・四国ブロック指導者協議会（松山市内）
高校生連絡協議会・秋の総会（日赤支部）
- 一二月 第六一回青少年赤十字研究会（伊方町立三崎小学校）
青少年赤十字・赤十字奉仕団愛媛県大会（松山市内）
指導者中央講習会（東京都）
- 一月 指導主事対象研究会（東京都）
- 二月 第三回指導者協議会常任委員会（日赤支部）
- 三月 高校生スタディー・センター（山梨県）

【新規加盟校・園(所)】 ※(再)は再加盟

四国中央市立松柏小学校、新居浜市立金子小学校、新居浜市立高津小学校
愛媛県立新居浜西高等学校、めぐみ幼稚園(西条市)、西条市立東予南幼稚園
西条市立東予南保育所、今治市立関前中学校(再)、花園幼稚園(松山市)
松山市立小野小学校、松山市立北久米小学校、松山市立北条南中学校(再)
久万高原町立仕七川幼稚園、宇和島市立天神小学校(再)、愛南町立家串小学校

計 15校 (園・所)

発行・編集

愛媛県青少年赤十字指導者協議会
日本赤十字社愛媛県支部

〒790-0854 松山市岩崎町二丁目3-40
TEL 089-921-8603 FAX 089-932-9160
<http://www.ehime.jrc.or.jp/>

(発行日 平成31年3月31日)

平成30年度
青少年赤十字加盟状況

校 種	校 数	メンバー数
幼稚園・保育所	87園	8,674名
小 学 校	181校	49,952名
中 学 校	54校	13,958名
高 等 学 校	16校	1,578名
計	338校	74,162名